

進行性多巣性白質脳症(PML)診療, 1年間の進歩

-国内の多発性硬化症患者における薬剤関連PMLの情報-

研究分担者: 佐賀中部病院神経内科 雪竹基弘

本邦の多発性硬化症(MS)患者における薬剤関連PMLの発症は

1. ナタリズマブで1名(2016年)
2. フィンゴリモドで4名(2016年2例, 2017年2例)
3. フマル酸での国内発生はないが海外では5例の発生を認める。

表. MSにおけるフマル酸関連PMLの概要

Gieselbach RJ et al. *J Neurol.* 2017; **264**: 1155-1164.

	Other immunosuppressive drugs in previous 5 years.	Duration of FAE use until diagnosis of PML, in months.	Range of lymphocyte count (/mm ³)	PML-IRIS	Outcome
54 yo (f)	Glatiramer acetate	54	At PML diagnosis: 481. CD4, 106; CD8, 38.	No	Death
61 yo (f)	Natalizumab	22	600	NA	Survived
58 yo (m)	NA	24	476-486	No	Survived
59 yo (m)	NA	17	414-728 At PML diagnosis: 414	Yes	Survived
64 yo (m)	Interferon-β	26	NA At PML diagnosis: CD4, 96; CD8, 14.	No	Survived

これらの研究は「診療ガイドラインの策定・改訂」に有用である。

解説

1. 国内でも2016年以降, 複数の薬剤でMS患者に薬剤関連PMLが発生している。
2. MS患者のフマル酸関連PMLは国内では発生がないが, フマル酸の使用が急増しており, 注意が必要である。
3. フマル酸関連PMLも末梢血リンパ球数の減少がPML発症リスクのひとつである可能性がある。